フロンティアスクール中間報告書

【千葉県】

Ⅰ　学校の概要

山武郡成東町立成東小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	2	2	15	26
児童数	73	65	77	55	82	69	2	423	

Ⅱ　実践研究の概要

（1）実施学年・教科

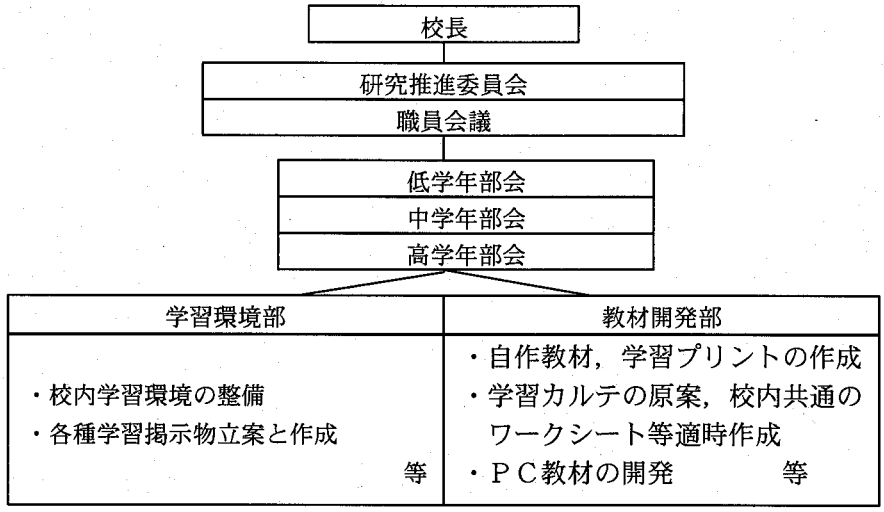
1年生～6年生　算数科を中心とした全教科（学力の定着，向上を図るべき教科として，特に算数科が重要であるとして研修や研究が始まったが，他教科への波及という点で15年度の実践によりそれが可能であり，また，本来の学力のねらいである基礎・基本の充実について児童への指導方法そのものを幅広く，多岐にわたり研究する必要性が感じられたため。）

（2）年次計画

平成十四年度	○　テーマ 子どもが生涯にわたって発揮できる「確かな学力」の獲得と向上を目指して ～子ども一人一人の実態に応じた指導法の工夫を中心として～ ○　仮説 ・　算数科指導のねらいに応じて学習の場を工夫すれば，一人一人が課題を見つけ，自らの方法で解決する学習が成り立つだろう。 ・興味や関心及び習熟の程度に応じて個に応じた指導を行えば，一人一人の確かな学力の定着が図れるだろう。 ○　研究の内容・方法 ・　児童の実態調査を基に研修会議や学年会等で検討しながら進めている。（以下①～⑤具体的方法と内容）①仮説の設定,平常日課での少人数指導②T．T．等の複数教員による授業の導入③平時での児童の学習に関する実態の把握④校内授業研修会を中心とした授業実践の検証⑤年間を通した授業実践の方法の検討。等
平成十五年度	○　テーマ 子どもが生涯にわたって発揮できる「確かな学力」の獲得と向上を目指して ～子ども一人一人の実態に応じた指導法の工夫を中心として～ ○　仮説 ・　算数科や体育科の指導のねらいや児童の習熟の程度に応じた教材の選択を工夫すれば，一人一人が課題を見つけ，自らの方法で解決・表現する学習が成り立つだろう。 ・　学習の特性に応じた場を工夫していけば，学習意欲が高まり，確かな学力が身につくだろう。 ○　研究の内容・方法（新しく体育科の導入も含めて） 14年度の実践結果の改善を加えつつ，15年度研修活動を通して，児童の更なる学力向上の為の方法の確立と本校教育課程の課題を明らかにし，フロンティアスクール事業の実践を図る。（以下①～⑦は具体的方法と内容）①15年度としての全校児童・保護者への実態調査やアンケートの実施②ブロック体育公開実践発表会の実施③仮説の内容の再考，立案④少人数指導やT．T．等の複数教員による指導体制から，他教科への波及方法を検討④本校オリジナルの教材・教具の開発⑤単元や授業内容に応じた外部人材の登用（その為の具体的な組織づくり。）⑥校内授業研修会を中心とした授業実践の検証。⑦フリー参観校内授業研究会の実施（他教科への波及プランの一部として）
	○　テーマ 子どもが生涯にわたって発揮できる「確かな学力」の獲得と向上を目指して

	～子ども一人一人の実態に応じた指導法の工夫を中心として～
平成十六年度	○ 仮説 ・ 個に応じたきめ細かな指導を工夫していけば，基礎的・基本的な学習内容の定着が図れ，学力が向上するだろう。 ・ 児童の実態に即して学習のねらいや活動に応じた場を工夫していけば，学習意欲が高まり，確かな学力が身につくだろう。 ○ 研究の内容・方法 １４，１５年度の実践結果の改善を加えつつ,１６年度研修活動を通して，フロンティアスクール事業の推進，実践，定着，継続化を図る。（以下①～⑦は具体的方法と内容）①２ヶ年にわたる検証授業などの実践をもとにした児童の実態調査。②１６年度研究テーマや仮説の設定。③算数科，体育科の実践を基にした他教科への学力向上の具体策の波及，及びその指導体制の検討。④複数教員での算数科での授業実践の継続。⑤教材開発の継続。⑥公開実践発表会の実施⑦各教科・領域にまたがる検証授業の実施と研究成果のまとめ。等。

（３）研究体制



Ⅲ 平成１５年度の成果と課題

成果	・ 体育科公開実践発表会への取り組みを通して本校の課題が明確になり，その後の体育科経営での改善を施すことに役立った。 ・ 複数教員による算数指導は定着し，次の取り組みを見通して児童が授業に臨むようになってきた。発展的な問題，基礎的な問題に取り組むコースを自分で選択しながら取り組みたいと思う児童が増え，より確実に習得したいという態度が見られる。その結果，難易度の高い問題の正答率も向上してきた。 ・ フリー公開授業を通して，各授業での指導法の研究及び学力に関する考察の場を設けることができた。
課題	・ 体力向上推進委員会などで，体育での学力的な向上を見通した取り組みを再考したい。 ・ 発展的・基礎的学力観の共通理解を更に明確にする必要がある。 ・ 本校の実態に応じた教材の作成，開発については発展的な学習という見地で教材作成に踏み出したい。 ・ 他教科における学力向上に対する取り組みについて目標や方策をより明確にし，各教科の特質に応じての具体的な指導法を明らかにしていく必要がある。 ・ 地域人材導入の具体的な教科・組織作りについては検討中である。

Ⅳ,学力把握のための学校の取り組みについて

・千葉県標準学力テスト（年１回）
・随時でのテストの実施（学習に関する各種アンケート，小ワークテストの実施，ベネッセ等の学力考査テストの実施予定）

Ⅴ,フロンティアスクールとしての普及について

・ 今年度は,講師指導による校内研究会中心であったが，次年度は主に山武管内を対象とした校内研究会への参観をよびかける予定である。また，HP作成による公開については更新案作成中で

ある。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】　　１５年度からの新規校　　１４年度からの継続校

【学校規模】　　６学級以下　　７～１２学級
　　１３～１８学級　　１９～２４学級
　　２５学級以上

【指導体制】　　少人数指導　　T．Tによる指導
　　一部教科担任制　　その他

【研究教科】　　国語　　社会　　算数　　理科
　　生活　　音楽　　図画工作　　家庭
　　体育　　その他　　随時他教科でも実践

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　有　　無